



ASFALIS Slave Node

インストールガイド

株式会社エリジオン

2020年 8月

目次

1. はじめに	1
2. 共有ネットワークフォルダの設定	1
3. インストール手順	3
3.1. .NET Framework の導入 (事前準備)	3
3.2. ASFALIS Slave Node のインストール	4
4. ASFALIS Slave Node の設定	11
4.1. 共通設定	11
4.2. コンポーネントの設定	12
4.3. コンポーネントの追加と削除	13
4.4. Windows サービスの登録と削除	16
4.5. ASFALIS Slave Node の起動と停止	18
4.5.1. 通常プロセスの場合	18
4.5.2. Windows サービスの場合	20
4.6. 複数の ASFALIS Slave Node の設定	21
4.7. 高度な設定	21
4.8. 設定の引き継ぎ	22
5. 補足	24
5.1. ASFALIS Slave Node を実行するユーザについて	24
5.2. ASFALIS Slave Node の実行状態を確認する方法について	24
5.3. Windows サービスとして実行する場合のトラブルシューティング	24

1. はじめに

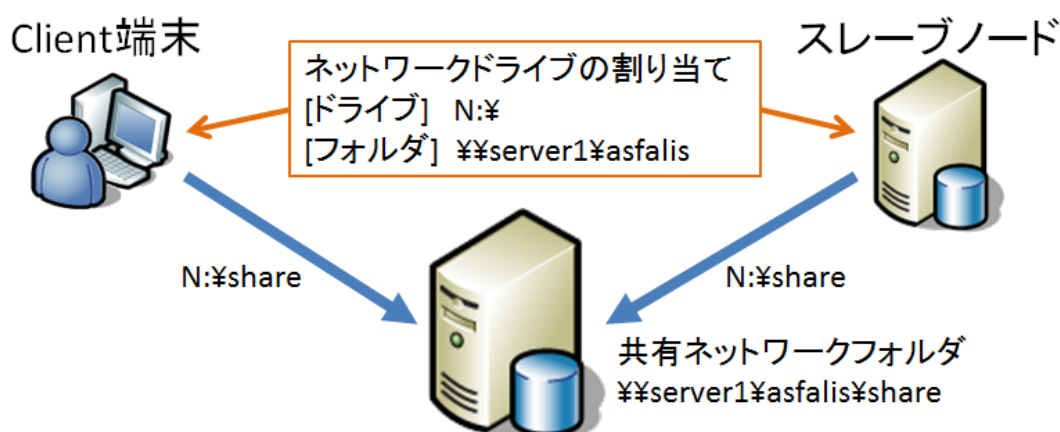
本書では、ASFALIS Slave Node のインストール・セットアップ手順について説明します。

2. 共有ネットワークフォルダの設定

ASFALIS Slave Node をインストールしたマシンや ASFALIS Slave Node を使用するクライアントマシンは、1つのフォルダを同じパス (例. N:\share) で共有する必要があります。ここでは、各マシンに共有フォルダを設定する方法を説明します。

共有フォルダを設定する際、以下の点に注意してください。

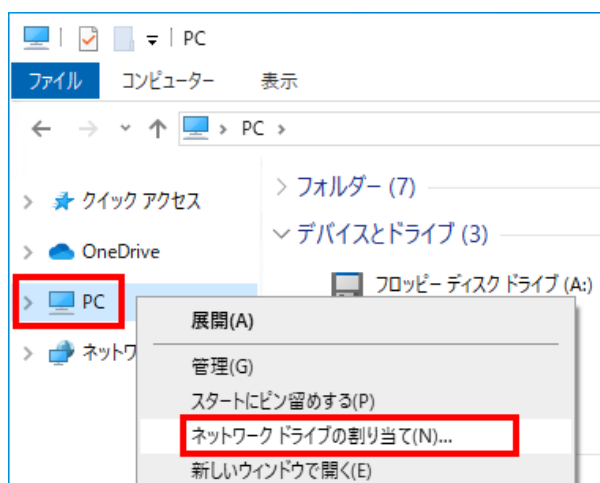
- データ処理時の出力フォルダやワークフォルダは共有フォルダの下に作成されるため、共有フォルダには 空き容量の大きなドライブを割り当てる必要があります。
- 共有フォルダには UNCパス (\\ で始まるパス) を設定することはできません。
- ドライブのルートフォルダ (“N:” など) を共有フォルダに設定することはできません。



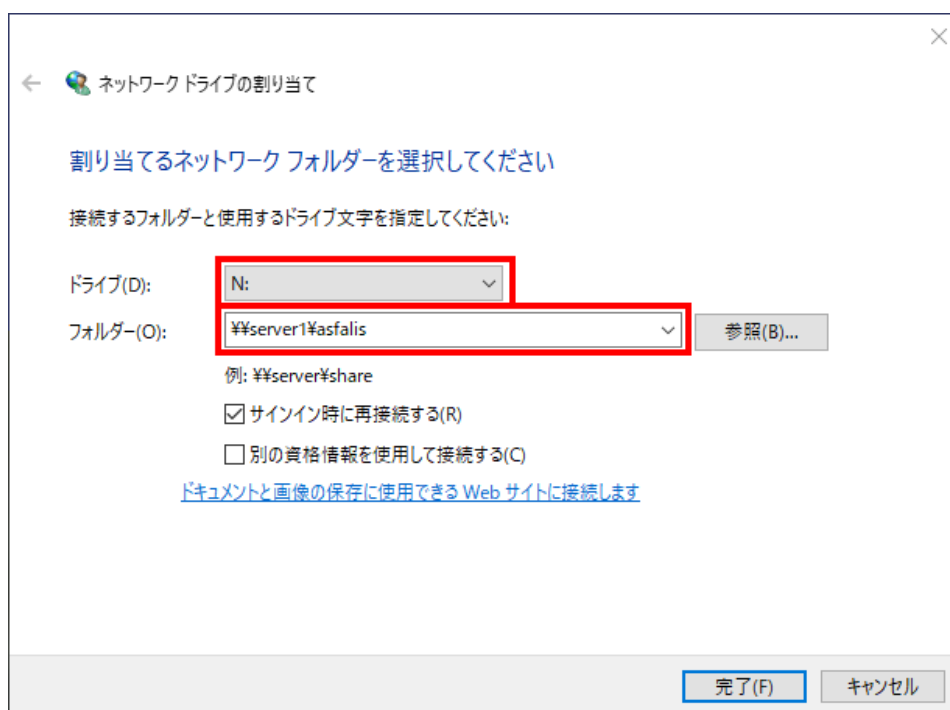
上の例では、server1 というマシンのフォルダ “\\server1\asfalis\share” を共有フォルダとしています。ただし共有フォルダに UNC パスを設定することができないため、“\\server1\asfalis” というフォルダを N ドライブに割り当てて “N:\share” というパスに変更してから共有フォルダとして使用しています。

UNC パスを任意のドライブに割り当てる方法

- 「コンピューター(もしくはマイ コンピュータ)」を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダ欄には割り当てる予定の UNC パスを設定します。最後に [完了] ボタンを押します。



上記の設定は、ASFALIS Slave Node をインストールしたマシンや ASFALIS Slave Node を使用する全てのマシンに対して行ってください。

3. インストール手順

CAD アダプタ・最適化コンポーネントを導入するためには、ASFALIS Slave Node のインストーラを使用します。以下の手順に従ってインストールを行ってください。

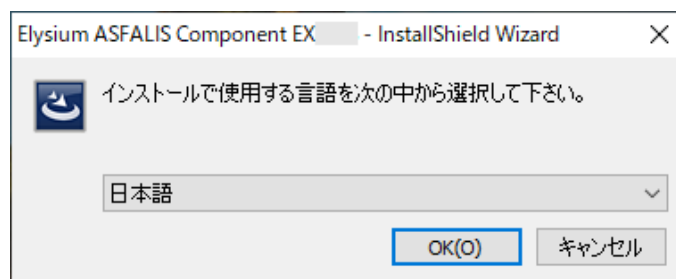
3.1. .NET Framework の導入 (事前準備)

ASFALIS EX7.0 以前ではインストール時に自動で .NET Framework 4.5.2 がインストールされていました。これに対し EX7.1 以降では ASFALIS のインストールに先立って .NET Framework の手動インストールが必要となる場合があります。ASFALIS をインストールする環境の状況に応じた事前インストールの必要有無は以下の通りです。

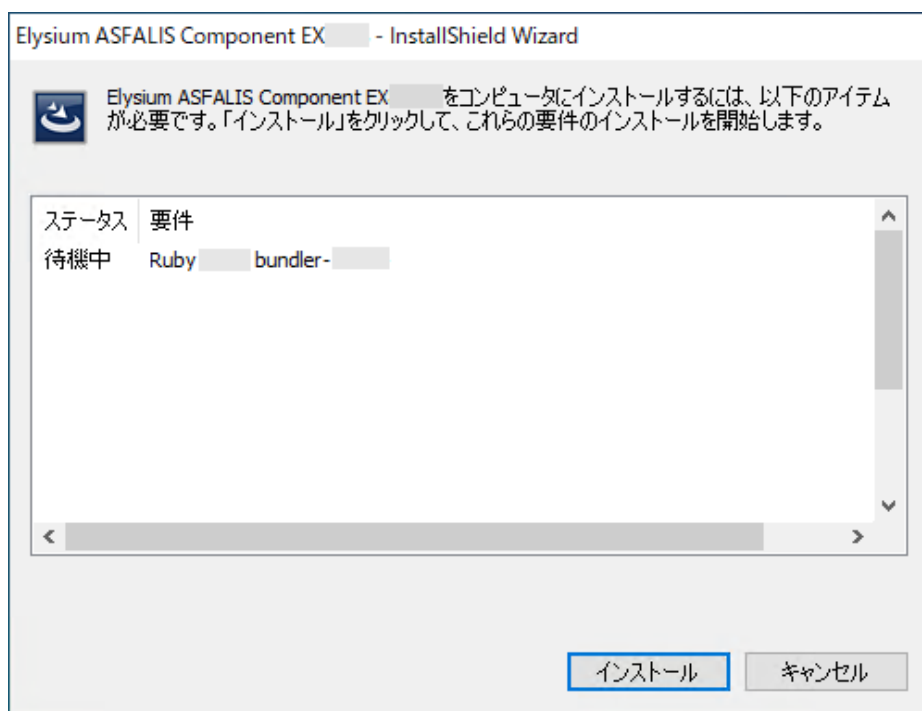
1. .NET Framework 4.0～.NET Framework 4.5.1 が導入されている環境
.NET Framework は自動でインストールされません。事前に以下のインストーラを実行して .NET Framework 4.5.2 を手動でインストールしてください。
 - <ASFALIS Slave Node インストールパッケージ>
\\ISSetupPrerequisites{C4366B56-BE8F-41DA-AEFC-CB5165ADB5D3}\\NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-ENU.exe
2. .NET Framework 4.0 以降が導入されていない環境
インストール時に自動で .NET Framework 4.5.2 がインストールされます。事前作業は不要です。
3. .NET Framework 4.5.2 以降が導入されている環境
事前作業は不要です。

3.2. ASFALIS Slave Node のインストール

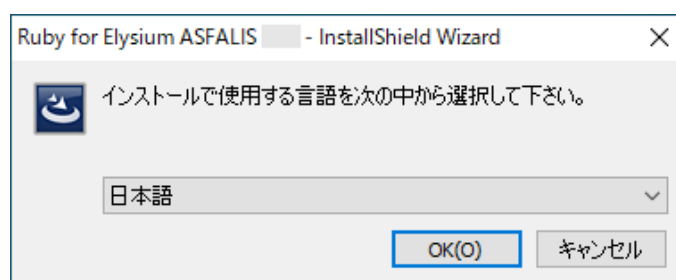
1. ASFALIS Slave Node のインストーラを実行します。インストーラのパスは以下の通りです。
 - <ASFALIS Slave Node インストールパッケージ>\setup.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] を押します。日本語と英語が選択可能です。



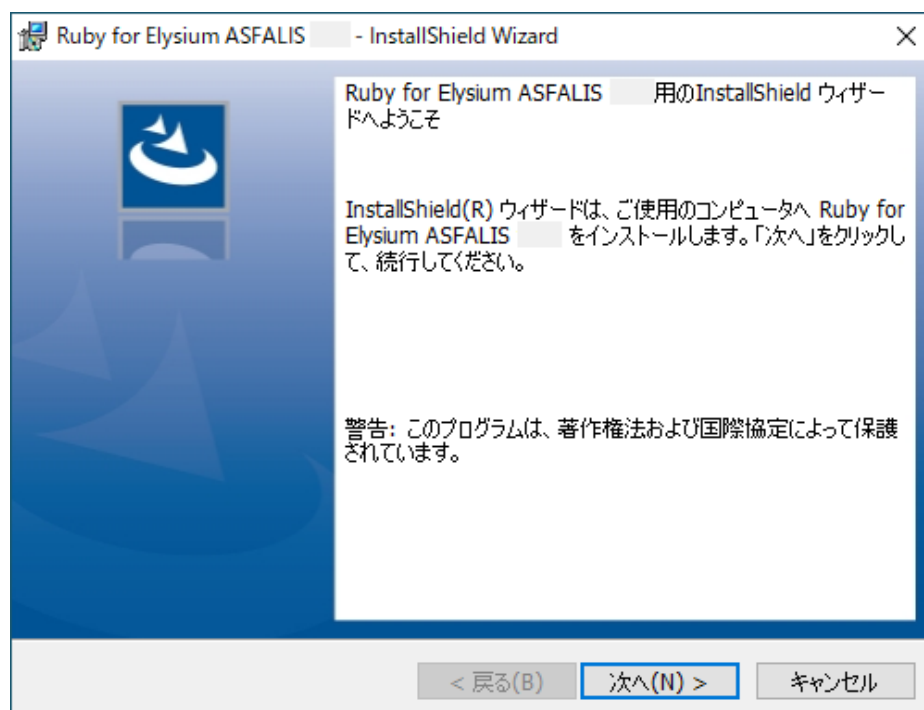
3. このダイアログが表示された場合、[インストール] を押します。



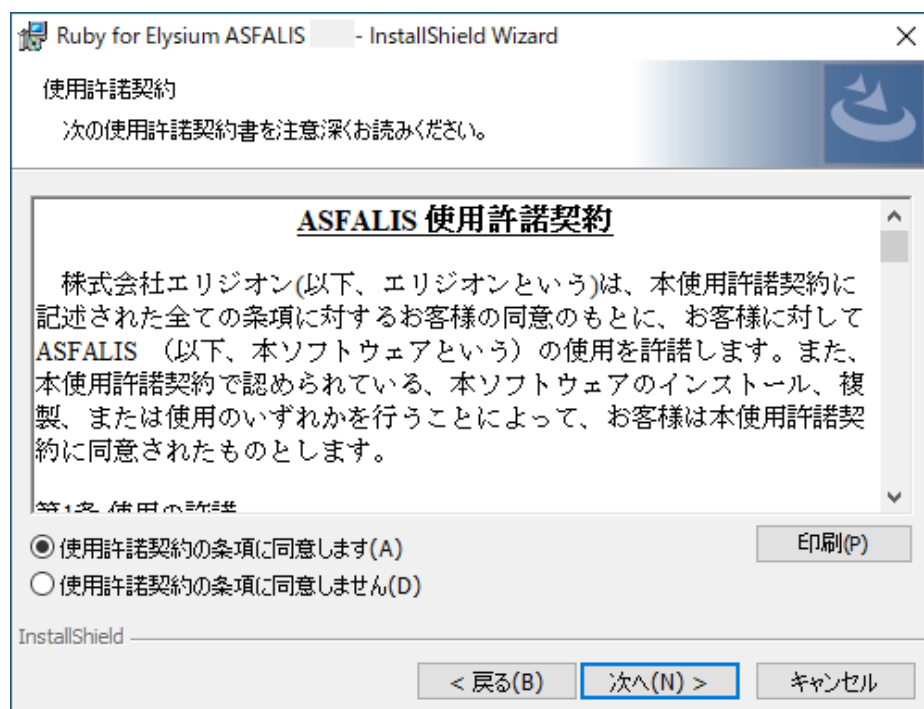
4. Ruby for Elysium ASFALIS のインストーラが起動します。既に Ruby for Elysium ASFALIS が導入されている場合は、11.へ進んでください。
5. インストールで使用する言語を選択して [OK] を押します。



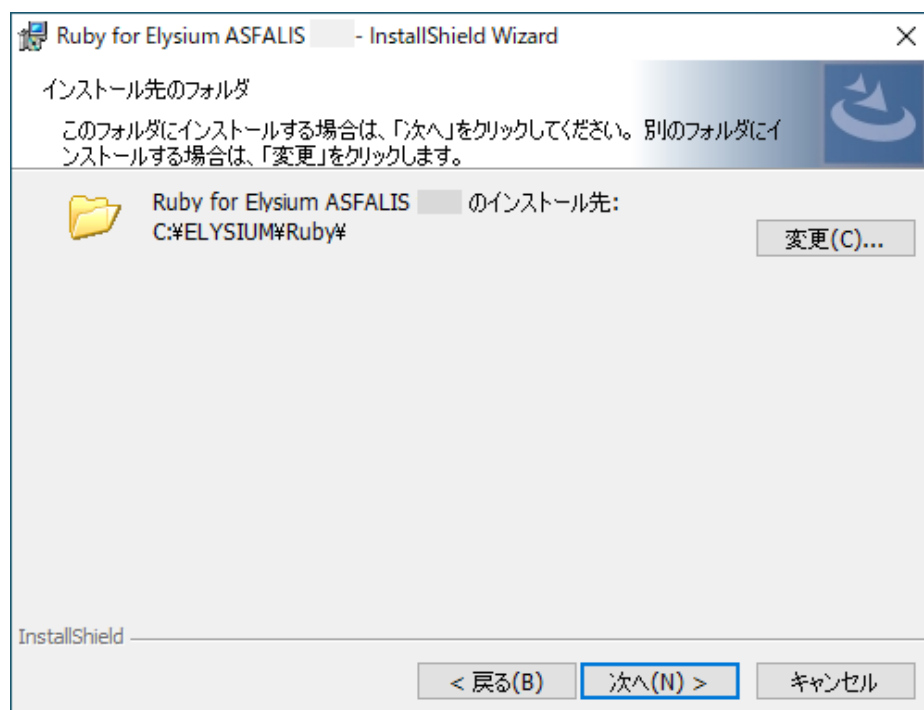
6. インストールウィザードが起動します。[次へ] を押します。



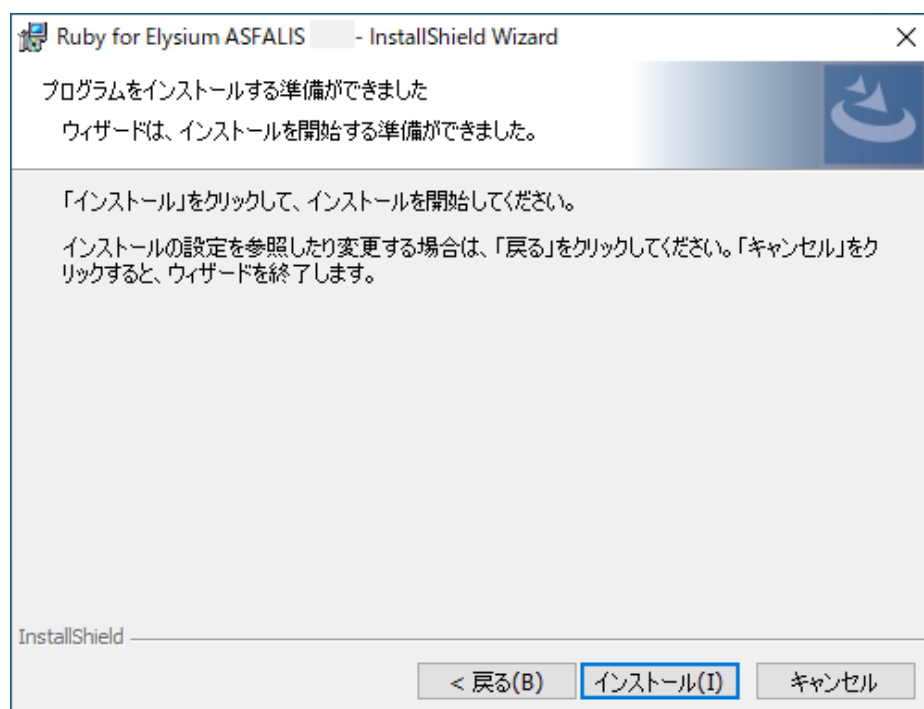
7. 使用許諾契約が表示されますので、よくお読みください。使用許諾契約に同意いただける場合、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して [次へ] を押します。同意いただけない場合、インストールを続ける事はできません。



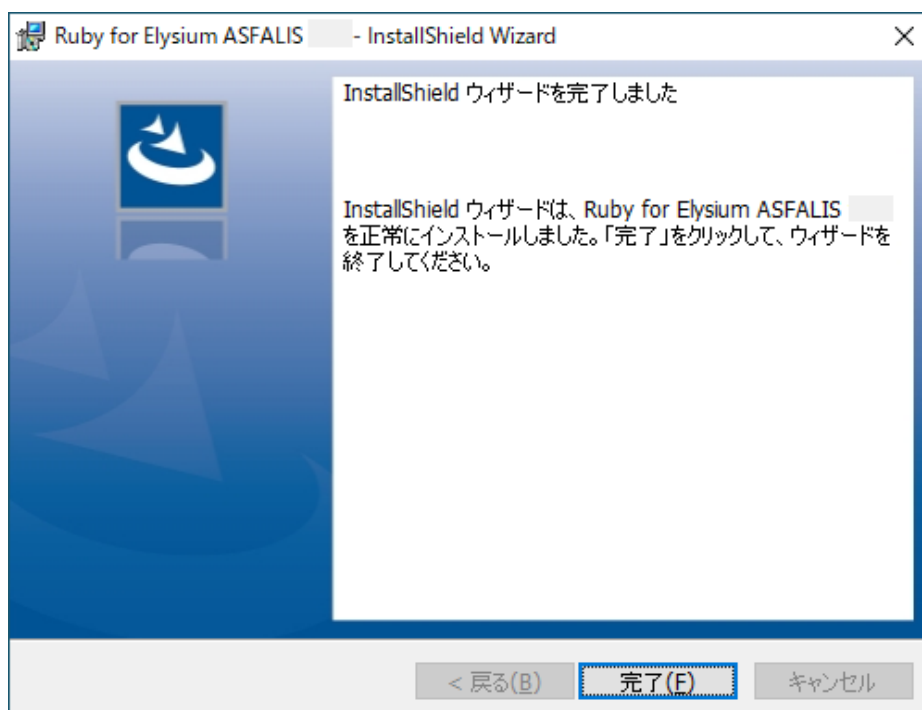
8. インストール先のフォルダを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] を押して変更先フォルダを指定します。指定が完了したら、[次へ] を押します。



9. [インストール] を押してインストールを開始します。



10. インストールが完了すると、以下のダイアログが表示されます。[完了] を押します。



Ruby for Elysium ASFALIS のインストーラが終了し、ASFALIS Slave Node のインストーラに戻ります。

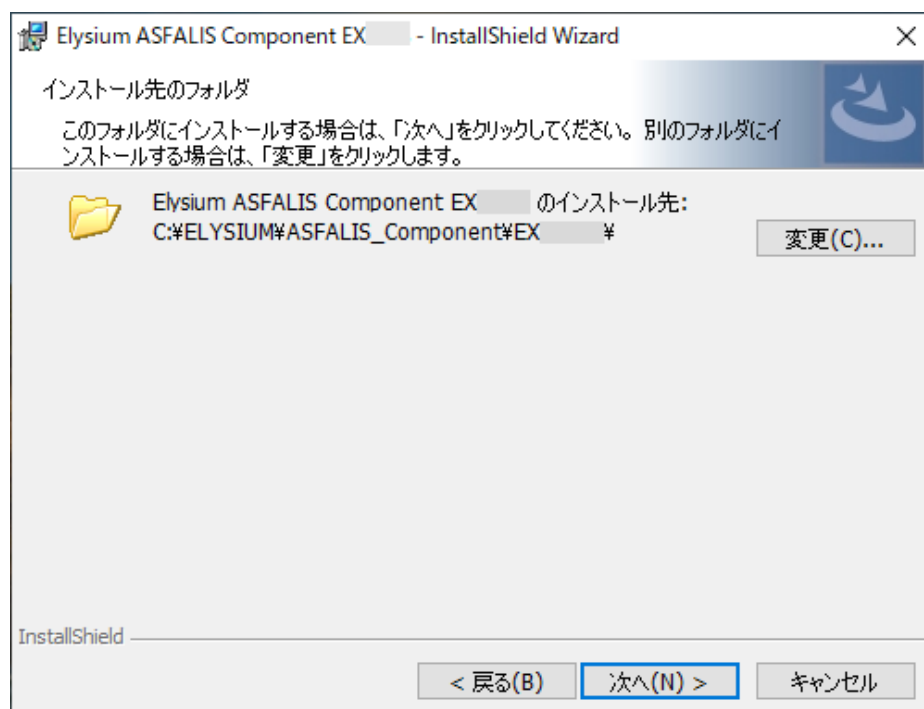
11. インストールウィザードが起動します。[次へ] を押します。



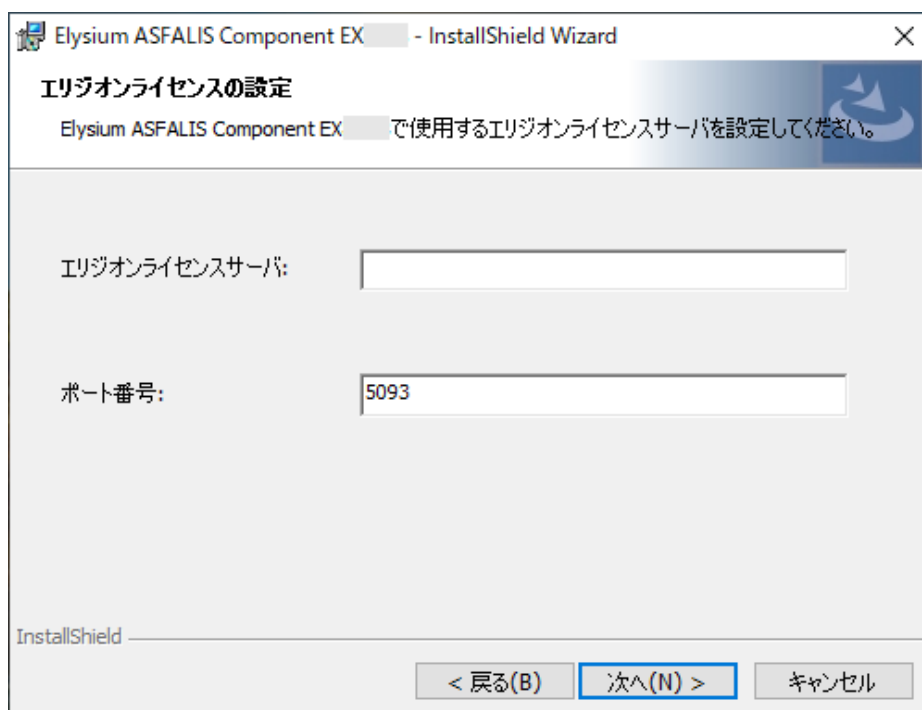
12. 使用許諾契約が表示されますので、よくお読みください。使用許諾契約に同意いただける場合、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して [次へ] を押します。同意いただけない場合、インストールを続ける事はできません。



13. インストール先のフォルダを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] を押して変更先フォルダを指定します。指定が完了したら [次へ] を押します。



14. エリジオンライセンスが登録されているサーバ名とポート番号を指定します。指定が完了したら [次へ] を押します。エリジオンライセンスについては、Sentinel RMS License Manager セットアップ & クイックスタートガイド (LicenseServer_QuickStartGuide_ja.pdf) をご参照ください。

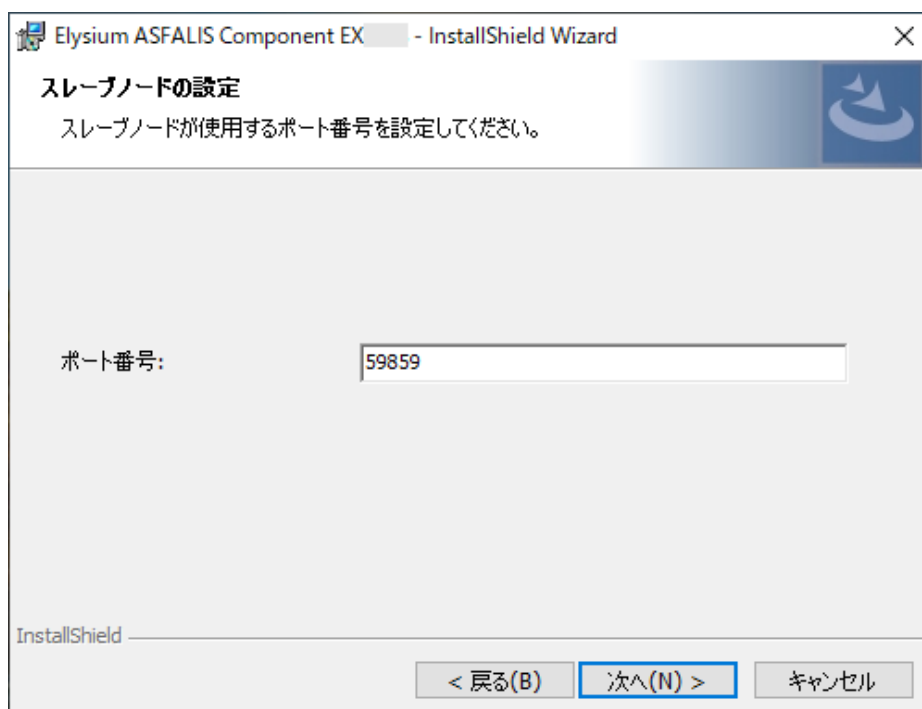


15. サーバマシン上で ASFALIS Slave Node が使用するポート番号を指定します。初期値として 59859 が指定されています。通常は変更する必要はありませんので、そのまま [次へ] を押します。

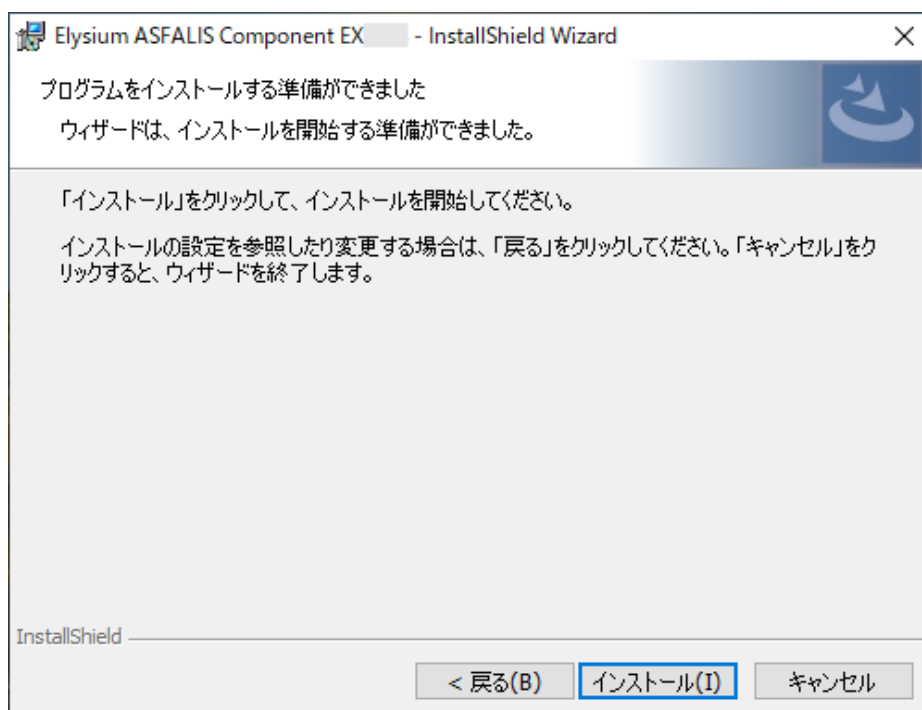


ポート番号の変更が必要なケース：

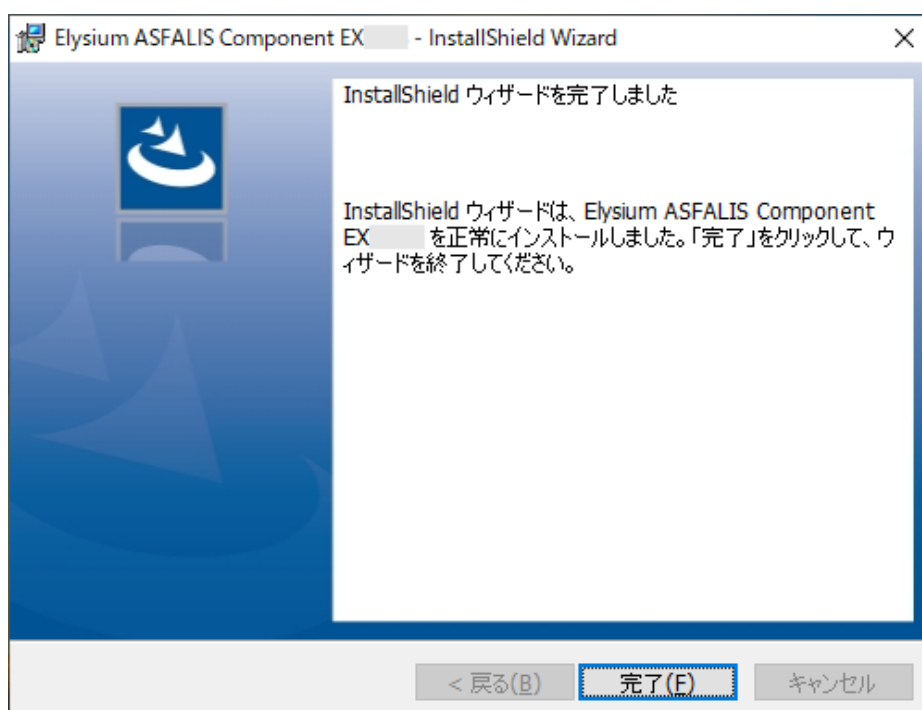
他のプログラムがポート番号 59859 を既に使用している場合は、他のプログラムが使用していないポート番号を指定する必要があります。



16. [インストール] を押してインストールを開始します。



17. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] を押してインストーラを終了します。



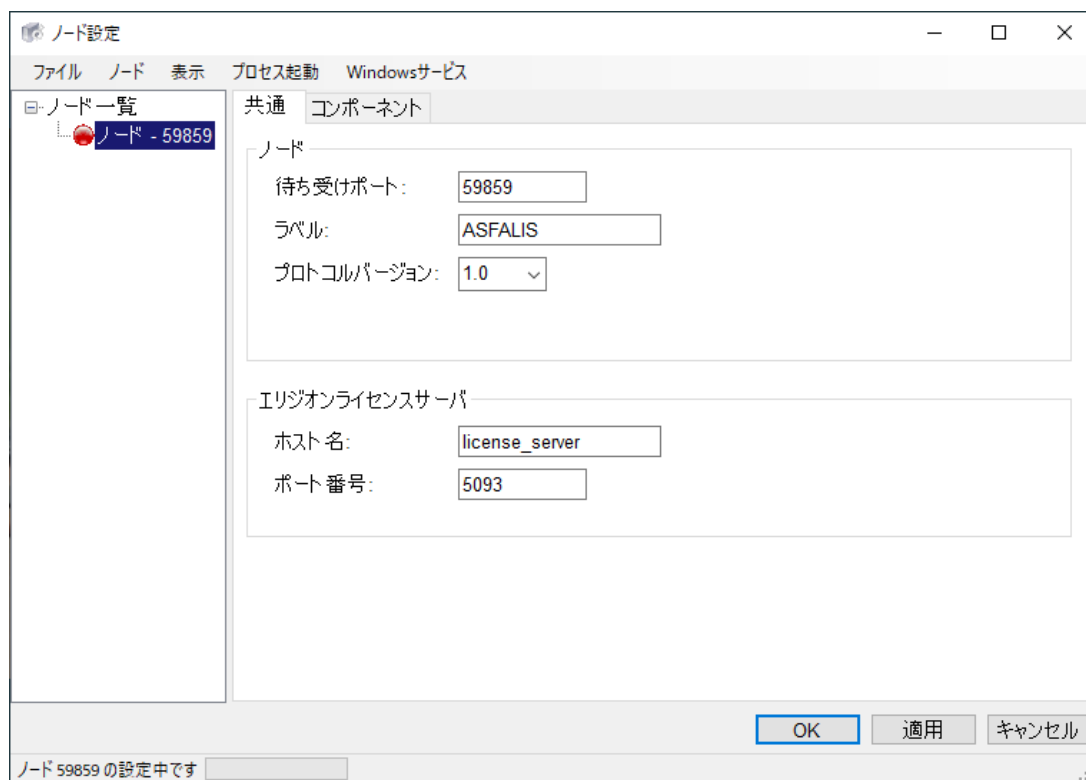
以上で ASFALIS Slave Node のインストールが完了しました。CAD アダプタ・最適化コンポーネントの有効化設定などを行うには、「4, “ASFALIS Slave Node の設定”」をご参照ください。



ASFALIS Controller もしくは ASFALIS TransServer が動作するコンピュータから Slave Node が動作するコンピュータの名前を解決する必要があります。また逆に Slave Node から ASFALIS Controller もしくは ASFALIS TransServer が動作するコンピュータの名前も解決する必要があります。

4. ASFALIS Slave Node の設定

ASFALIS Slave Node のセットアップを行います。Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS Component] - [EX*.*) - [ノードの設定] を実行すると、以下のダイアログが起動します。ここで、EX*.*) は ASFALIS Slave Node のバージョン名を意味します。ASFALIS Slave Node のセットアップはこのダイアログ上で行います。



導入済みの ASFALIS Slave Node から設定を引き継ぐことも可能です。手順については「[4.8, “設定の引き継ぎ”](#)」を参照してください。

4.1. 共通設定

「共通」タブでは、使用する CAD アダプタ・最適化コンポーネントに依らない必須設定項目を設定します。

共通 コンポーネント

ノード

待ち受けポート: 59859

ラベル: ASFALIS

プロトコルバージョン: 1.0

エリジオンライセンスサーバ

ホスト名: license

ポート番号: 5093

【ノードの設定】

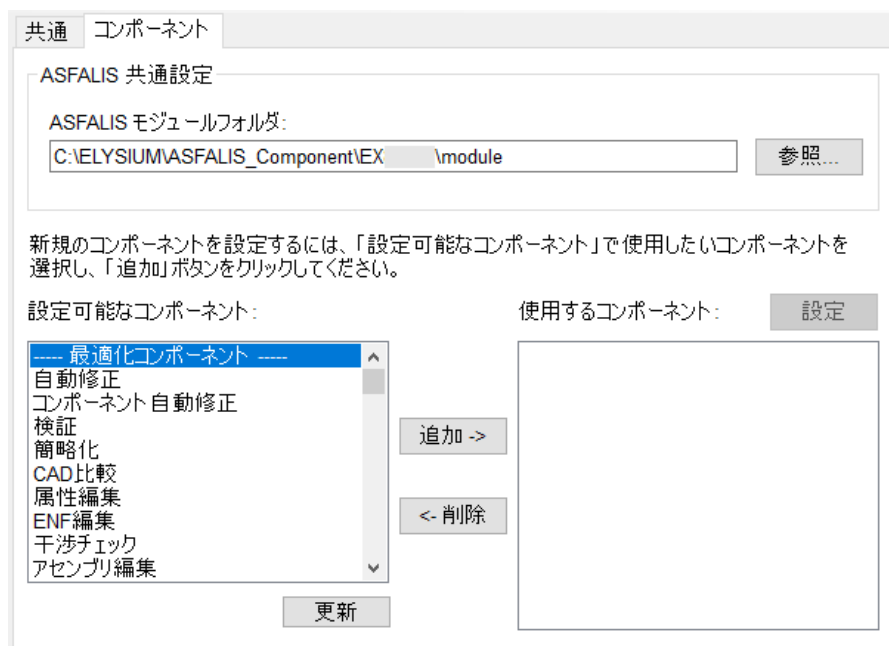
- 待ち受けポート
クライアントマシンとの通信に使用するポートの番号を指定します。他のプログラムで使っていない番号を指定してください。
- ラベル
複数の ASFALIS Slave Node をグループ化するための項目です。コンポーネントの SlaveNodeLabel パラメータにグループのラベルを指定することで、グループに属するいずれかの ASFALIS Slave Node に処理を実行させることができます。同一のラベルを指定した ASFALIS Slave Node が同一のグループに所属するものとして扱われます。グループ化する必要がない場合には変更する必要はありません。
- プロトコルバージョン
ASFALIS デスクトップや ASFALIS TransServer 用のノードとして使用する場合は 1.0 を、Aras Connection Option 用のノードとして使用する場合は 2.0 を使用してください。

【エリジオンライセンスサーバの設定】

- ホスト名/ポート番号
CAD アダプタ・最適化コンポーネントが使用するライセンスサーバの情報を指定します。

4.2. コンポーネントの設定

「コンポーネント」タブでは、使用したいコンポーネントの有効化および CAD の導入フォルダなどコンポーネントの動作に必要な情報を設定します。



【ASFALIS 共通設定】

- ASFALIS モジュールフォルダ

Slave Node で使用する ASFALIS モジュールが導入されているフォルダを指定します。ASFALIS Slave Node に同梱されている ASFALIS モジュールのフォルダが指定されているので、通常の運用では変更する必要はありません。

【使用するコンポーネントの設定】

- 設定可能なコンポーネント

この ASFALIS Slave Node で設定可能なコンポーネント (CAD アダプタや最適化コンポーネント) の一覧です。

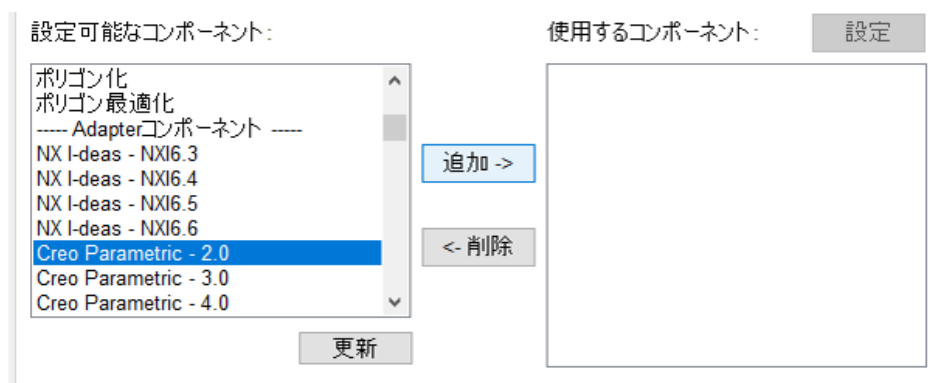
- 使用するコンポーネント

この ASFALIS Slave Node で動作するように指定されたコンポーネントの一覧です。「[4.3, “コンポーネントの追加と削除”](#)」で設定方法を説明します。

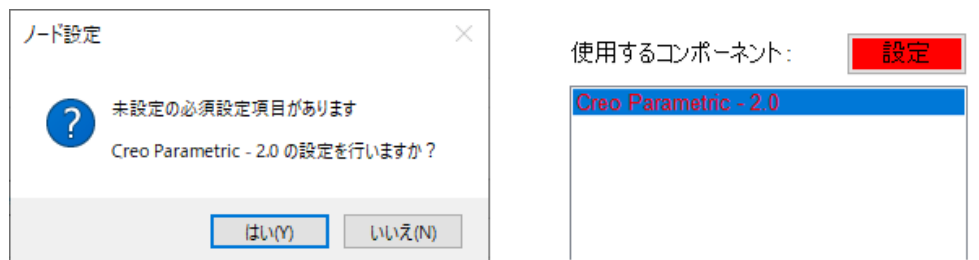
4.3. コンポーネントの追加と削除

- 設定可能なコンポーネントの一覧から使用したいコンポーネントを選択して、「追加」を押します。

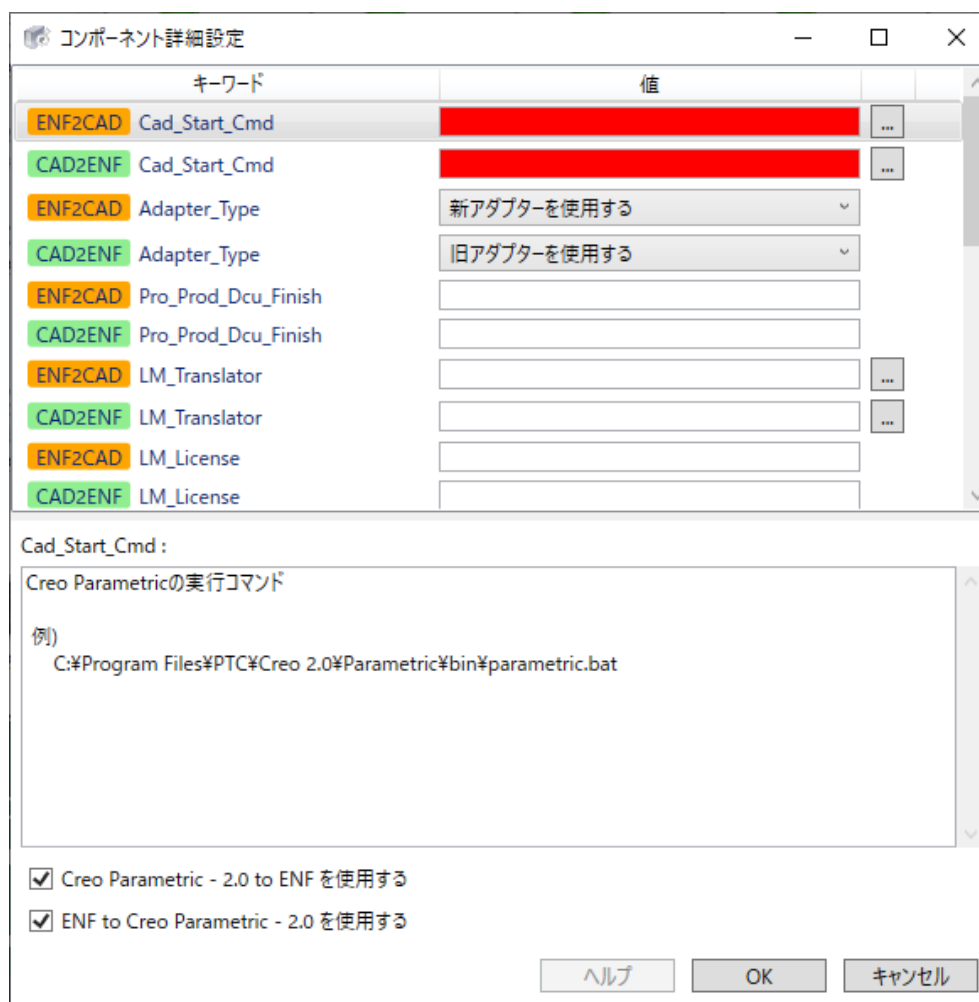
- 「自動修正」コンポーネントは必ず追加してください。



2. 必須設定項目が存在するコンポーネントを追加した場合には、以下のようなダイアログが表示されるので「はい」を選択して設定を開始します。「いいえ」を選択した場合も、使用するコンポーネントの「設定」を押すことで、後から設定を行うことが可能です。



3. 2.で「はい」を選択した場合や「設定」を押した場合には、コンポーネント詳細設定ダイアログが表示されます。CAD の導入フォルダや起動プログラムなどの必須情報 (値の列の背景が赤色で表示されています)、テンプレートファイルやライセンスタイムアウトなどの任意の設定項目を設定することができます。新旧どちらのコンポーネントを使用するかも選択することができます。



新旧のアダプタコンポーネントについて説明します。

- 旧アダプタ : EX5.2 以前から使われているタイプの Adapter コンポーネントです。EX6.0 以降でも基本的には旧アダプタがデフォルトで使用されます。
- 新アダプタ : EX6.0 から新しく導入された Adapter コンポーネントです。一部のコンポーネントでは新アダプタがデフォルトで使用されます。

4. 「OK」を押して、設定を完了します。

Slave Node は Windows サービスとして動作させることもできます。ただし一部の ASFALIS コンポーネントはサービスとして実行されている Slave Node での実行に対応していません。

現時点における各 ASFALIS コンポーネントのサービス化対応状況は以下の通りです。サービス化未対応のコンポーネントについては、Windows サービスとして動作していない Slave Node で実行するようにしてください。

コンポーネント名	対応状況	備考
CATIA V5(CAA)	対応済み	-
3DEXPERIENCE	3DEXPERIENCE to ENF: 対応済み ENF to 3DEXPERIENCE: 未対応	-
CATIA V4	対応済み	-
NX I-deas	未対応	-
Parasolid	対応済み	-
NX(UFUNC)	対応済み	-
Creo Parametric	対応済み	-
Autodesk Inventor	対応済み	-
Creo Elements/Direct Modeling	対応済み	-
ACIS	対応済み	-
STEP	対応済み	-
STEP AP242 BOM	対応済み	-
IGES	対応済み	-
SOLIDWORKS	未対応	-
JT	対応済み	-
PLM XML	対応済み	-
iCAD	対応済み	-
CATIA V5 (standalone)	対応済み	-
Creo Parametric (standalone)	対応済み	-
NX (standalone)	対応済み	-
CADmeister (standalone)	対応済み	-
XVL	対応済み	-
STL	対応済み	-
3D PDF	対応済み	-
3DXML	対応済み	-

コンポーネント名	対応状況	備考
自動修正	対応済み	-
PDQチェック	対応済み	-
形状簡略化	対応済み	-
CAD比較	対応済み	-
ENF ポリゴン	対応済み	-
ポリゴン最適化	対応済み	-
属性編集	対応済み	-
アセンブリ編集	対応済み	-
干渉チェック	対応済み	-
ENF編集	対応済み	-



カスタムコンポーネントが Windows サービスとして動作することの可否については、カスタムコンポーネントから呼び出される実行ファイルやバッチファイルのサービス対応状況に依存します。

4.4. Windows サービスの登録と削除

ASFALIS Slave Node を Windows サービスとして登録し、動作させることができます。登録した場合は、コンピュータの起動に併せて Slave Node も自動的に起動するため、ユーザが対話的ログインを行って起動する必要がありません。

Windows サービスを登録/削除する手順は以下の通りです。

a. Windows サービスの登録

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス登録] を選択します。
2. 表示されたダイアログでサービス実行ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。



ユーザ名とパスワードを指定せずに [OK] を選択した場合、ローカル システム アカウントがサービス実行ユーザとして設定されます。
この場合には、手順 6. でネットワークフォルダパスにアクセスするために使用するユーザのユーザ名とパスワードを必ず設定してください。



ライセンス設定がユーザプロファイルに関連付けられている CAD の場合、サービス実行ユーザをライセンス設定の関連づけられていないユーザ（ローカル システム アカウントなど）にすると変換に失敗する場合があります（例: CATIA V5）。このような場合には、サービス実行ユーザを CAD のライセンス設定が関連付けられたユーザに設定してください。

3. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] を選択します。

- サービスの登録に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。
- メニューから [ファイル] - [共通設定] を選択します。
- "作業フォルダ設定" にドライブレター、ネットワークフォルダパス (2, “共有ネットワークフォルダの設定” で指定したものと同じ内容) を入力します。また、手順 2. で設定したサービス実行ユーザがこのパスにアクセスする権限を持っていない場合には、アクセス権のあるユーザのユーザ名とパスワードも入力します。

共通設定

ワーク設定

キューサーバー名: localhost

作業フォルダ設定

ドライブレター: N:

ネットワークフォルダパス: \\server1\asfalis

サービス起動時に上記パスにアクセスするためのユーザを指定してください。
ログオンユーザでパスにアクセスできる場合は指定の必要はありません。:

ユーザ: user

パスワード: *****

パスワード(再入力): *****

共通設定

ログファイルを開くために使用するアプリケーション: Notepad.exe

OK キャンセル

b. Windows サービスの削除

- メニューから [Windowsサービス] - [サービス削除] を選択します。
- ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] を選択します。
- サービスの削除に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



Windows サービスとして登録する場合、コンピュータの起動に併せて Slave Node も自動的に起動するため、ユーザが対話的ログインを行って起動する必要がありません。これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

運用の一例としては、定常的に Slave Node を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験等を実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。使用目的や想定される使用状況等を踏まえた上で、適切な方法を選択してください。

4.5. ASFALIS Slave Node の起動と停止



Windows サービスとして実行されている ASFALIS Slave Node と通常プロセスとして実行されている ASFALIS Slave Node は同一コンピュータ上で併存しないように運用してください。



ASFALIS Slave Node がサービスとして実行されている状態でノードの追加や設定変更を行う場合には、サービスを停止した上で [ノード設定] から変更を行い、設定後にサービスを再起動してください。



ASFALIS Slave Node が通常プロセスとして実行されている場合には、ASFALIS Slave Node の Windows サービスを開始しないでください。既定の設定ではコンピュータ起動時に ASFALIS Slave Node の Windows サービスが自動的に起動するため、必要に応じてサービスの自動起動設定を無効化してください。なお通常プロセスとして実行する場合にノードの追加や設定変更を行う際には、ノードを停止した上で [ノード設定] から設定変更を行い、再度ノードを起動してください。

4.5.1. 通常プロセスの場合

ASFALIS Slave Node を通常プロセスとして起動/停止する方法は以下の 3 種類です。

【プログラムメニューから起動/停止する】

起動:

Windows の [スタート]-[すべてのアプリ]-[Elysium ASFALIS Component]-[ノードの起動 EX*.*) を実行してください。(EX*.*) は ASFALIS Slave Node のバージョン)

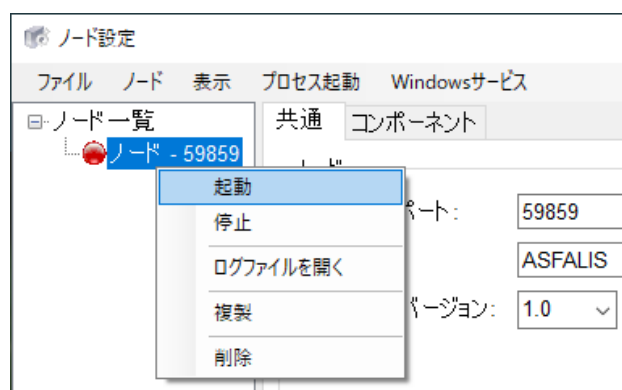
停止:

"ASFALIS -..." で始まる名称のコマンドプロンプトを、ウインドウ右上のXボタンを押して閉じてください。

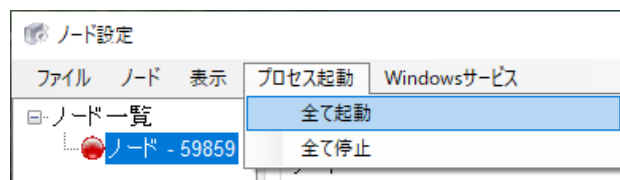
【ノード設定ダイアログから起動する】

起動:

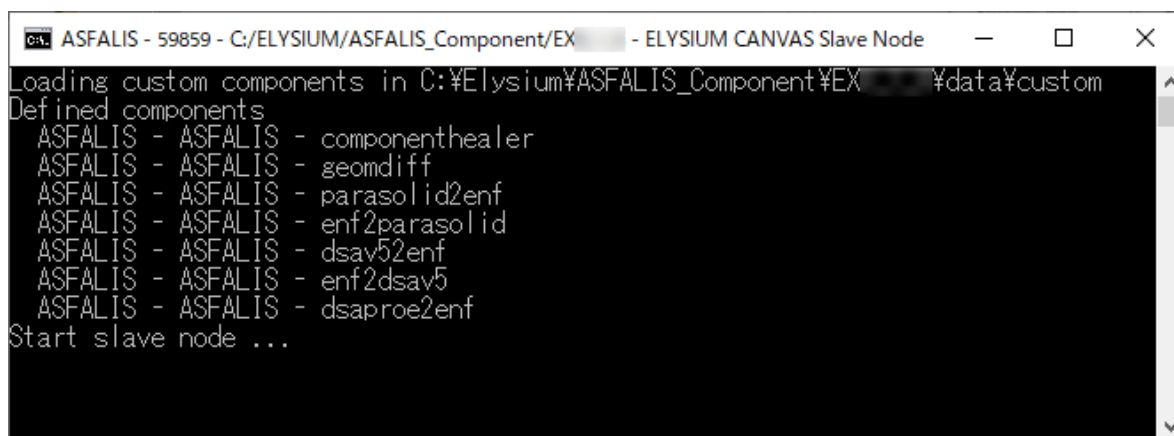
ノード一覧から起動したいノードを右クリックして "起動" を選んでください。



メニューの [プロセス起動] - [全て起動] を実行することでもノードの起動を行うことができます。



ASFALIS Slave Node の起動に成功すると、以下のウィンドウが表示されます。



停止:

ノード一覧から停止したいノードを右クリックして "停止" を選んでください。

メニューの [プロセス起動] - [全て停止] を実行することでもノードの停止を行うことができます。

【コマンドラインから起動する】

<導入フォルダ>\bin_launcher 内の WorkerLauncher.exe を使用することで、ASFALIS Slave Node の起動/停止をコマンドラインから実行することができます。 オプションの詳細については、以下のように「/?」を引数として WorkerLauncher.exe を実行し、確認してください。

```
> WorkerLauncher.exe /?
```

以下、ASFALIS Slave Node の起動/停止のためのコマンド例を示します。

- 全ての ASFALIS Slave Node を起動/終了する場合

起動:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start
```

停止:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop
```

- 特定ポートの ASFALIS Slave Node を起動/停止する場合

起動:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort={起動したい ASFALIS Slave Node  
のポート番号}
```

停止:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop /ListenPort={停止したい ASFALIS Slave Node  
のポート番号}
```

(例) ポート番号 59859 で定義されている ASFALIS Slave Node を起動する場合
以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort=59859
```



NoWindow オプションについて:

NoWindow オプションを引数として渡して WorkerLauncher.exe を実行すると、エラー発生時にもエラー内容を表示させずに終了させることができます。NoWindow オプションを使用しない場合、エラー発生時にはエラー内容を表示したままの状態となります。

(例) NoWindow オプションを使用して全ての ASFALIS Slave Node を停止する場合
以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop /NoWindow
```

4.5.2. Windows サービスの場合

以下の手順でサービスの起動および停止を実行してください。

a. Windows サービスの起動

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス起動] を選択します。



作業フォルダが設定されていない場合には、エラー ダイアログが表示されます。[ファイル] - [共通設定] を選択し、表示されたダイアログで作業フォルダを設定してください。

2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] を選択します。
3. サービスの起動に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。

b. Windows サービスの停止

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス停止] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] を選択します。
3. サービスの停止に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



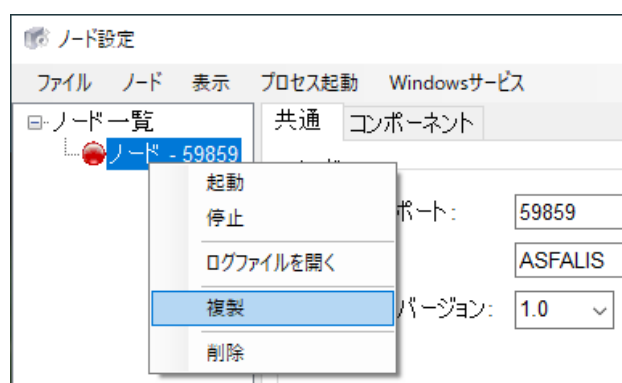
各ノードに設定されているすべてのポートが使用可能な場合のみ、ASFALIS Slave Node の Windows サービスを起動することができます。いずれのポートが通常プロセスとして起動された ASFALIS Slave Node もしくは別のアプリケーションによって利用されている場合、Windows サービスの起動に失敗しますのでご注意ください。

4.6. 複数の ASFALIS Slave Node の設定

ノード設定では、異なる設定をもった複数のノードを設定することができます。

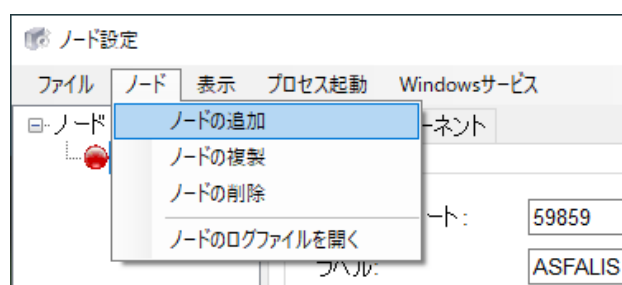
既存のノード設定を複製

1つのノードでは同時に1つの処理しか実行されません。そのため、同一のコンポーネントに対して複数のライセンス (エリジオンライセンス・CAD ライセンス) を所有している場合には、同一設定のノードを複数設定することでライセンスを有効に活用することができます。



新規ノード作成

特定の CAD 専用のノードを作成したい場合など、既存のノードとは全く異なるコンポーネントをもったノードを作成したい場合には、新規にノードを追加してください。



4.7. 高度な設定

メニューの [表示] - [高度な設定] にチェックを付けると、[高度な設定] タブが表示されま

す。ASFALIS Slave Node でのみ使用する環境変数の設定などを行うことができます。

共通 コンポーネント 高度な設定

カスタムコンポーネント

カスタムコンポーネントフォルダ:

C:\Elysium\ASFALIS_Component\EX\data\custom 参照...

共通設定

環境変数:

	Key	Value
*		

追加... 削除

【カスタムコンポーネント】

- カスタムコンポーネントフォルダ
ASFALIS 以外の外部モジュールをコンポーネントとして追加するためのフォルダです。

【共通設定】

- 環境変数
ASFALIS Slave Node で使用する環境変数を設定することができます。ここで設定した環境変数は ASFALIS Slave Node 内でのみ有効です。

4.8. 設定の引き継ぎ

過去に導入済みの ASFALIS Slave Node がある場合、設定済みの内容を引き継ぐことができます。手順は以下の通りです。

- Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS Component] - [EX*.*) - [ノードの設定] を実行します。（EX*.*) は ASFALIS Slave Node のバージョン）
- [ノード設定] ウィンドウでメニューから [ファイル] - [インポート] を選択します。
- ファイル選択ウィンドウで、導入済み ASFALIS Slave Node のインストールパス配下にある config フォルダ内の ServiceConfig.xml を選択して [開く] を選択します。
- [ノードの設定] ダイアログが表示されたら内容を確認し、インポートを実行する場合には [OK] を選択します。
- [ノード設定] ウィンドウで [適用] を選択します。



ASFALIS Slave Node が使用するアダプタの新旧についても過去の設定が引き継がれます。例えば新たに導入した ASFALIS Slave Node で既定値が新アダプタとなっている場合でも、導入済みバージョンの ASFALIS Slave Node で旧アダプタが選択されていた場合には、新たに導入した ASFALIS Slave Node に設定を引き継いだ際に旧アダプタが選択されます。

このような場合に新アダプタを使用するためには、設定を引き継いだ後でアダプタの設定を変更してください。

5. 補足

5.1. ASFALIS Slave Node を実行するユーザについて

ASFALIS Slave Node は、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

5.2. ASFALIS Slave Node の実行状態を確認する方法について

以下のコマンドの戻り値で ASFALIS Slave Node の実行状態を確認することができます。

<port>には ASFALIS Slave Node の使用するポート番号を指定してください。

- <ASFALIS Slave Node インストールフォルダ>\bin\check-slave-node-status.bat <port>

戻り値

- ASFALIS Slave Node が起動している場合 : 0
- ASFALIS Slave Node が起動していない場合 : 1

実行例 ("EX*_*" は ASFALIS Slave Node のバージョン)

- a. ポート 59859 を使用する ASFALIS Slave Node が起動している場合

```
>C:\ELYSIUM\ASFALIS_Component\EX*_*\bin\check-slave-node-status.bat 59859
>echo %ERRORLEVEL%
>0
```

- b. ポート 59860 を使用する ASFALIS Slave Node が起動していない場合

```
>C:\ELYSIUM\ASFALIS_Component\EX*_*\bin\check-slave-node-status.bat 59860
>echo %ERRORLEVEL%
>1
```

5.3. Windows サービスとして実行する場合のトラブルシューティング

Q1 : ASFALIS Slave Node の Windows サービス (ASFALIS Component Service EX*.*) は起動しているが他のコンピュータから接続することができない。



"EX*.*" は ASFALIS Slave Node のバージョンです。

- ASFALIS Slave Node のインストールされたコンピュータ上で、ファイアウォールが以下の実

行ファイル (Ruby) への接続を許可するように設定してください。

```
<Elysium Ruby の導入フォルダ>\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe
```

(例: C:\ELYSIUM\Ruby\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe)

Q2: 構成されているノードのうち一部だけを起動したい。

- ASFALIS Slave Node を Windows サービスとして実行している場合、構成されているノードの一部だけを起動および停止することはできません。
- Windows サービスを開始しようとした場合、すべてのノードの起動が試行されます。すべてのノードの起動が成功すると Windows サービスは "実行中" 状態となります。一部のノードの起動が失敗した場合、Windows サービスは "開始中" 状態のままとなります。この場合にはイベントログに関連する情報が記録されていないか確認してください。
- Windows サービスを停止しようとした場合、すべてのノードの停止が試行されます。すべてのノードの停止が成功すると Windows サービスは "停止" 状態となります。一部のノードの停止が失敗した場合、Windows サービスは "停止処理中" 状態のままとなります。この場合にはイベントログに関連する情報が記録されていないか確認してください。

Q3: ASFALIS Slave Node の Windows サービスが起動しない

- なんらかの事情により ASFALIS Slave Node の Windows サービスが起動に失敗した場合、イベントログに ID 828 もしくは ID 829 のイベントが記録されます。イベントの内容を参考にトラブルシューティングを実施してください。なお、Windows サービスが正常に起動/停止した場合には、ID 0 のイベントが記録されます。
- イベントログから原因を特定できない場合には、OS を再起動するなどして完全に ASFALIS Slave Node の Windows サービスが動作していない状態で [ノード設定] から通常プロセスとして ASFALIS Slave Node を起動し、正しく起動するか確認してください。なんらかのエラーが出力される場合には、その内容を手がかりにしてトラブルシューティングを実施してください。

Q4: Windows サービスの状態が "開始中" もしくは "停止処理中" のまま変化しない

- サービスの開始中もしくは停止中になんらかの問題が発生した可能性があります。イベントログに情報が出力されている可能性がありますので、ID 828 もしくは ID 829 のイベントが記録されていないか確認してください。
- 20 分以上待っても状況が変わらない場合には、タスクマネージャーから関連するプロセスをすべて停止してください。ASFALIS Slave Node に関連するプロセスは以下の通りです。
 - cmd.exe (コマンドラインに "start-slave-node.bat" という文字列が含まれている)
 - cmd.exe (コマンドラインに "check-slave-node-status.bat" という文字列が含まれている)
 - ruby.exe (コマンドラインに "start-slave-node.bat" という文字列が含まれている)
 - ruby.exe (コマンドラインに "check-slave-node-status.bat" という文字列が含まれている)
 - ruby.exe (コマンドラインに "start-slave-node" という文字列が含まれている)

- イベントログから原因を特定できない場合には、OS を再起動するなどして完全に ASFALIS Slave Node の Windows サービスが動作していない状態にした上で、[ノード設定] から通常プロセスとして ASFALIS Slave Node を起動し、正しく起動するか確認してください。なんらかのエラーが出力される場合には、その内容を手がかりにしてトラブルシューティングを実施してください。

Q5: サービス管理ツールから **Windows サービスを起動すると **ID 1053** のエラーが表示される**

- コンピュータの負荷が高い等の理由によりサービスの起動に時間がかかる場合に「エラー 1053: そのサービスは指定時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。」というエラーが出力されることがあります。これはサービス管理ツールが出しているエラーであり、エラーが表示された後もサービスの起動は継続されます。
- しばらく待ってから表示を更新し、サービスの状態が「開始」もしくは「実行中」となることを確認してください。またタスクマネージャーの[サービス]タブから起動すれば、サービスの起動に時間がかかっても本エラーは出力されません。

Q6: 変換に失敗する

- ASFALIS Slave Node の Windows サービスを停止した上で [ノード設定] から通常プロセスとして ASFALIS Slave Node を起動し、変換が成功するか確認して下さい。
 - ノードを通常プロセスとして起動した場合でも変換に失敗する場合は、ASFALIS Slave Node のログファイルを確認してください。ログは以下のフォルダに出力されます。
 - <ASFALIS Slave Node インストールフォルダ>\log
 - ノードを通常プロセスとして起動すると変換が成功する場合には、サービスのログオンユーザが共有フォルダにアクセスできていない可能性があります。ログオンユーザのアクセス権やネットワークドライブの設定を確認してください。

Q7: ASFALIS Slave Node の **Windows サービスを自動で起動しないようにしたい**

- サービス管理ツールから ASFALIS Slave Node の Windows サービス (ASFALIS Component Service EX*.*) のプロパティを開き、「スタートアップの種類」を "手動" に変更してください。EX*.*) は ASFALIS Slave Node のバージョンです。
- ASFALIS Slave Node のバージョンアップ等により旧バージョンの ASFALIS Slave Node が不要となった場合には、「スタートアップの種類」を "手動" に変更してください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。